

せい ろう まち
聖籠町
議会だより

VOL.
90
平成22年4月16日発行

笑顔で春を迎える 



平成22年度予算徹底検証

～一般会計68億円、総額で106億円～

2～5ページ

追跡レポート

～その後どうなった請願・陳情のゆくえ～

22・23ページ

平成22年度 予算 徹底検証

予算審査

特別委員会

平成22年度一般会計予算、特別会計予算の8会計を、平成22年3月10日、12日及び15日の4日間にわたり、各会計及び各款ごとに慎重に審査を行いました。

自主独立の道を歩む町として、町民各層の多様な声を吸い上げ、町民福祉に役立つ有効な施策の構築を願うものです。

そのために、財政調整基金の計画的な積み立てを強く要望します。

8会計総額

106億6587万円
(前年度対比2.3%増)

一般会計 68億9100万円 (10.6%減)

国民健康保険特別会計

事業勘定 12億8120万円 (2.6%増)

施設勘定 1億2367万円 (0.7%増)

老人保健特別会計

40万円 (76.8%減)

介護保険特別会計

9億0831万円 (0.4%増)

後期高齢者医療特別会計

7050万円 (3.8%減)

県営開拓パイロット事業

聖籠町特別会計 860万円 (12.4%増)

下水道事業会計 (平成22年度より特別会計から企業会計に移行)

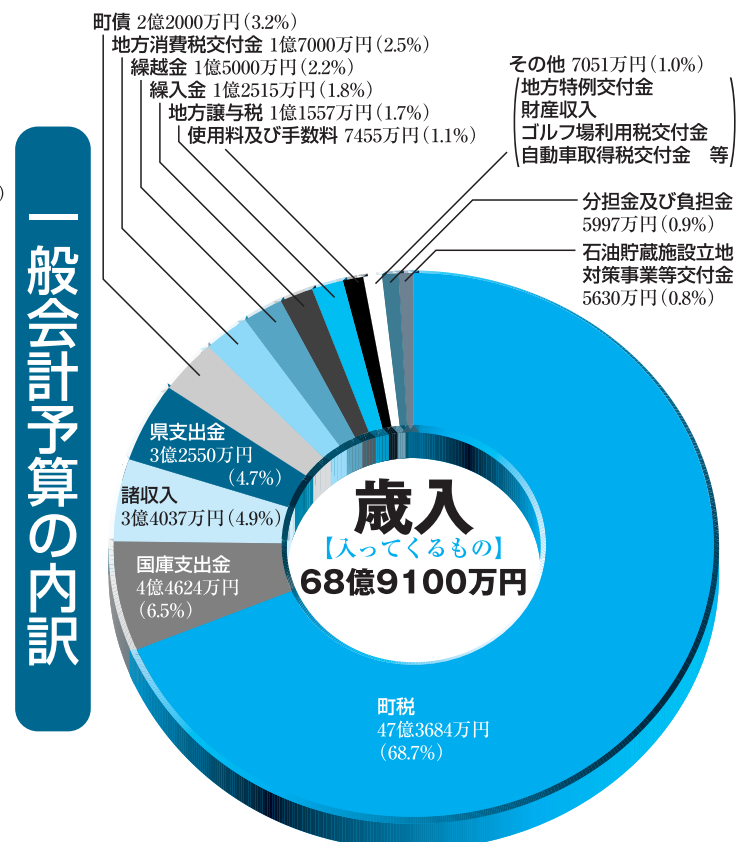
収益的支出 5億9557万円

資本的支出 3億1267万円

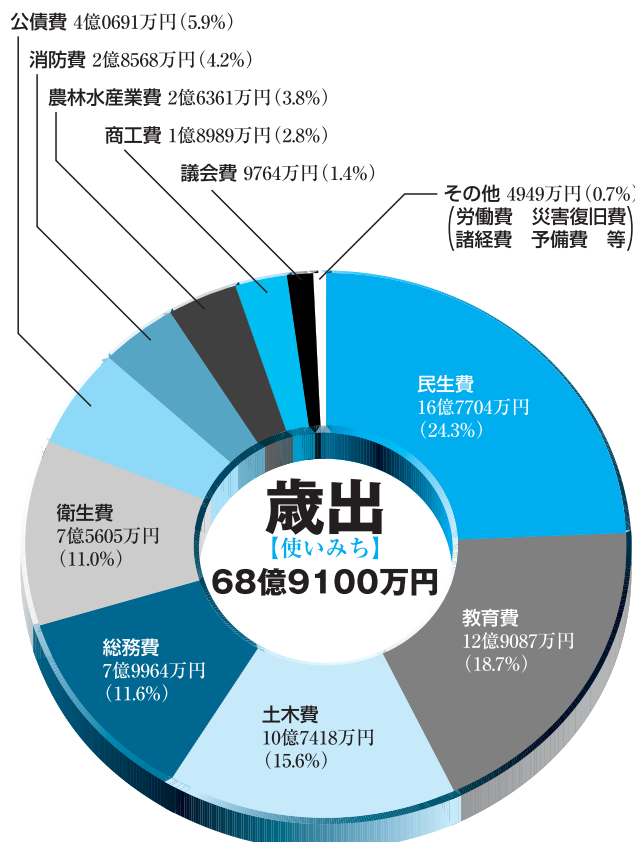
水道事業会計

収益的支出 2億5080万円 (0.1%増)

資本的支出 2億2315万円 (93.%増)



一般会計予算の内訳



一般会計予算 **68億9100万円** (前年度対比**10.6%減**)

一般会計予算

平成22年度における一般会計予算は、歳入では68・7%を占める町税は47億3683万円、前年度の48億2238万円に對して、8555万円の減で、前年度対比10・6%の減となっております。

歳出では、義務的経費、經常経費の継続的な圧縮・削減により、全般的に歳出抑制に努めています。

子ども手当の支給、子ども医療費助成対象の拡充など国・県の政策反映などによるものもあるが、杉の子の家作業所の米粉パン工房立ち上げの経費、自主防災組織活動助成、運漕なども園舎の耐震補強事業など安全対策、共生・連けいによるまちづくりの取り組みは評価できます。



平成22年度 予算 徹底検証

開かれた行財政の推進 (広報、広域行政、一般旅券発給など)

主な事業概要

消費者行政事業	326万円
第4次総合計画策定事業	470万円
広域行政推進事業	1023万円

活力・魅力あふれる産業づくり (農業、漁業、商業、観光など)

主な事業概要

水田農業確立対策事業	6000万円
中小企業活性化支援事業	1億2465万円
農産物加工センター管理業務委託料	500万円



個性豊かな人・ふるさとづくり (幼・小・中学校、社会教育、育英資金など)

主な事業概要

蓮潟こども園耐震補強事業	3093万円
小・中学校教育の充実事業	1億5827万円
育英資金貸与事業	3700万円



質 疑

問 町の広報紙は、公平公正でなければならぬ。内容についてチェックしているのか。
答 チェックしてない。今後十分注意する。
問 消費者相談員の配置はどうか、今後の取り組みは。
答 総務課の中で、町民からの消費生活に関する相談体制を強化するために専門相談員を配置したが、それなりの相談があった。本年はセンターを立ち上げる。

質 疑

問 近年、遊休農地が目につく、周辺農地への害虫被害や雑草繁茂の対策を講じてはどうか。また、町の農業実情を確認する資料として農業白書的なものの作成を望む。
答 遊休農地は所有者管理が第一であるが、今後指導していく。農業白書は検討する。
問 町の農地の地力低下が問題になってきているがどう、とらえているか。
答 生ごみたい肥化事業を拡充し、不足するたい肥の補充を目的として実施していく。



質 疑

問 学校関係の耐震補強工事は全部完了したと思うがどうか。
答 蓮潟こども園が最後。工事費は設計監理業務委託料も含み3093万円である。
問 社会教育施設備品購入費622万円とあるがどこで使用するのか。
答 次第浜村下開発区域に新規にできた、亀代地区公民館の備品購入計画である。



快適な生活空間の創造 (道路、都市計画)

主な事業概要

生ごみたい肥化事業	1億0622万円
道路維持管理・除雪事業	1億7568万円
弁天湯風致公園周辺整備事業	2900万円
下水道事業安定化対策事業	4億4711万円

質 疑

問 生活道路・通学路を確保するために、消雪パイプの設置にあたっては設置基準の見直し、優先順位を定め、除雪困難道路への設置を推進するべきである。
答 22年度から見直す。通学路・バス路線地区の要望を取り入れ計画的にやっていく。
問 生ごみたい肥化事業は処理する時に排出される二酸化炭素削減だけでなく、資源の再利用で農地の地力向上につながるが計画はどうか。
答 今年度から3カ年計画で全町を対象として生ごみ分別収集を開始し、本年は用地造成、施設の建設・生ごみ処理機関連機器購入経費を予算計上する。

安全で安心できる暮らしの実現 (防犯・防災、子育て支援、児童・高齢者福祉など)

主な事業概要

杉の子の家作業所米粉パン工房事業	2077万円
住宅用火災警報器設置助成事業	1000万円
児童福祉関連事業	5億1874万円
高齢者福祉関連事業	3億8843万円

質 疑

問 杉の子の家作業所に米粉パン工房を立ち上げるために施設整備を行い、技術指導等の運営経費を助成するが内容は。
答 米粉パンは町内産米を使用し、学校給食はじめ広く町民にお知らせし地産地消につなげる。パン工房に携わる障害者の自立支援と社会参加、就労への移行を促進する。
問 平成23年5月31日までに住宅用火災報知器の設置が義務づけられている。町民の安心・安全、生命・財産を確保していく上でも全世帯に設置してもらいたい予算が足りないのではないか。
答 住宅用火災報知器設置経費の1/2助成(上限1万円)1000軒分計画している。足りないようであれば補正で行う。



3月定例会

平成22年第1回定例会は、3月2日から16日までの15日間の会期で開かれました。町長から新年度の施政方針表明があり、平成21年度補正予算、平成22年度予算、聖籠町公民館設置及び管理に関する条例の一部改正、聖籠町後期高齢者医療に関する条例の一部改正、副町長選任についての同意、聖籠町農業委員会委員の推薦、JFAアカデミー調査特別委員会設置に関する決議など、27議案を慎重に審議し可決しました。

また、「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のNPT再検討会議での採択に向けた取組みを求める意見書など2件を可決しました。

一般質問では、9人の議員が、農業、教育、施政方針などについて、2日間にわたり、町政全般を質しました。

亀代地区公民館 完成



利用がもたれる新公民館

亀代地区(汐美台)に新たに公民館施設が設置されることに伴い、同施設の名称及び位置並びに使用料について規定するために、条例が改正されます。

主な質疑

安全対策はどうか

小川益一郎議員 亀代地区公民館の外構工事、駐車場は、まだ完成していない。安全対策はどうか。次第浜と隣接しており、セカンド公民館となりがちだが全町民が使いやすいようにすべきでないか。

安全対策を行う

町長 平成22年度の当初予算で敷地内の整備、外構工事、安全対策を行う。次第浜地区の人たちに限定されやすいが、広く町民にPRをし、一帯的な利用促進ははかられるようにする。

聖籠町職員に関する条例の一部改正

聖籠町職員の勤務時間、休暇等に関する条例、聖籠町職員の給与に関する条例の一部を改正します。時間外労働(月60時間を超える)の割増賃金率の引上げ及び支給割合の引上げに係る代替休暇制度を新設します。

代替休暇が必要と指導

町長 本来、超過勤務は課長が命令して行うものと考え、本人に代替休暇を取るよう指導する。

総務課長 人事院からの概要で、代替休暇にするよう指導されている。

超過勤務部分は本人の選択か

五十嵐利栄議員 時間外労働について国の制度が変わる。月60時間を超える部分については、代替休暇か時間外勤務手当の支給か本人選択になっている。このことについては、指導があったのか。

担当よりきいた

町長 在勤庁を本町とする場合は、担当よりきいた。

書類等の保存期間は、5年で有効である。保存規定があり、どうなっているか確認調査はしていない。

町長は責任をとるべきだ

小川益一郎議員 最高の管理責任者は町長であるので、時効分については減給することも視野に入れて、何らかの責任をとるべきでないか。

減給はしない

町長 これまでの経過を踏まえて、条文にあてはまることはないので減給はしないし、責任はとらない。

副町長に 加藤 健二 さん



加藤健二さん

平成22年3月31日をもち退任する、副町長・二宮正光さんの後任として、現総務課長の加藤健二さんを選任することの同意を求められ、賛成9、反対4で同意しました。

加藤さんは昭和48年10月に町職員に奉職、以来、町の職員として行政事務に従事、平成7年4月より健康増進課長、保健福祉課長、企画財政課長、平成17年4月より総務課長を務めており、行政経験も豊富で、人格、職見ともに優れた方であり、副町長としての活動に期待します。

副町長の選任

主な質疑

なぜわからなかつたのか

五十嵐利栄議員 平成22年2月の例月監査委員の指摘で、厚労省へ8年前から派遣し、その間働いてない日の日当が支給されていた。

しかるべき管理者総務課長や助役がかかわったと思うが、なぜ、8年間もわからなかつたのか。

この件で総務課長は、戒告で副町長も同様ということだが、直接の責任は町長か。

中身を熟知してなかつた

町長 平成21年11月に監査委員から指摘されるまで、8年間は担当職員も中身を熟知していなかつた。わからなかつたということは、自宅に帰って



町のお金きびしく監査

いても町長自らの処分は行うことはなかつた。

なぜ在勤庁を本町にした

小川益一郎議員 町職員が東京に向向しているのに、なぜ在勤庁を本町にしたのか。

8年間の分を金額にすると26万円強になるのではないか。

中身は調査してないよ。うだが、公金であり調査すべきでないか。

山辺川線の用地取得

町道次第浜山辺川線の整備のため用地取得を行います。

次浜山辺川線については、網代浜地内からパイロット地区道路が整備されています。今後、亀代こども園まで町道が延長されます。

主な質疑

市街化区域との関係はどうなっているのか。

取得用地は市街化調整区域である

市街化区域との関係は

加藤正之議員 取得金額を割ると3480円となるが亀代地区は3450円である。

ふるさと整備課長 単価は宅地以外であり、取得用地は3840円で市街化調整区域である。



整備が進む山辺川線

農産物加工センターの指定管理者 聖籠地場物産(株)

指定期間 平成22年4月1日から平成27年3月31日

主な質疑

副町長は退任しても社長か

小川益一郎議員 3月31日

日で二宮副町長は退任するが、辞めても聖籠地場物産(株)の社長なのか。保健所へ地場物産の職員が個人的に手続きをしているが、町がすべて業

務を行って、指定管理者に委託するべきではないか。

会社にまかせる

町長 民間であるので、社長を辞めるかどうかは会社にまかせる。手続きについては、決まってからとなるが、事前行為も当然である。事は把握していない。



オープン間近 農産物加工センター

一般会計補正予算

トキめき新潟国体聖籠町実行委員会負担金 1154万円減額
聖籠町水道事業会計補助金 1000万円
財政調整基金積立金 1億6750万円

主な質疑

営業努力をしている

ざぶ〜ん館 入場者減か
五十嵐利栄議員 ざぶ〜ん館1300万円減収である。入場者の減少か。

保健福祉課長 ざぶ〜ん館はかなり営業努力をしている。入場者数は落ちこんでいない。

火災報知器の減額原因は何か

五十嵐利栄議員 火災報知器の補助金1800万円の減額は何が原因か。設置をしてもらう努力が必要でないか。

町民に伝わらなかった

生活環境課長 火災報知器は4月に区長へ周知し、新聞、広報は3回掲載したが町民に伝わらなかった。

平成22年度は消防団で全戸訪問し、努力したい

子どもたち給食は食べているか

中村恵美子議員 給食の歳入減は、給食の回数が減ったこと、滞納ということがあるが、3カ月以上滞納している子どもも給食は食べているか。

学校教育課長 給食は毎年、注文をとっている。

3カ月以上滞納の人もいるが、すべての子どもたちは給食を食べている。

歳入見込額は

小川益一郎議員 今後、歳入の見込額、調定額はどうか。町民税の確定額は。

当初で1億5000万円

税務財政課長 当初段階で歳入の見込額は、1億5000万円である。交付金7000万円があり少し増える。

調定見込額は50億の補正である。100%確定で現在50億8000万円である。町税は50億2800万円である。

パイロット事業の地区決済金は何か

加藤正之議員 地区除外決済金とは、どういふものか。滞納繰越分は予算計上されなかったのか。

次浜山辺川線の賦課分が10年分

産業観光課長 次浜山辺川線の道路が用地買収に入り、本年度の賦課分を含めて決済金が10年分生じることである。滞納繰越分は例年調定で処理していたが、地区除外金が生じて訂正が必要になった。前年度の5月末の出納閉鎖期に滞納額が確定するが、その滞納額である。

国民健康保険補正予算質疑

予防接種者の状況は

宮沢光子議員 新型インフルエンザのワクチン購入費437万円が、昨年11月の臨時議会で議決された。町民3000人分のワ

クチンが用意されたが、現実の接種状況はどのようなものだったのか。今後、ワクチン接種を希望した場合はどうなるのか。

予想していたより少なかつた

保健福祉課長 聖籠町において、診療所が新型インフルエンザのワクチンを用意できた。ワクチン接種については、対象者の優先順位があった。当初、接種予約が殺到したが、その後、予想していたより、接種者が少なかった。

3月議会で300万円を減額する。

今後、電話で予約してもらいワクチン接種はできる。



町の憩いの場 ざぶ〜ん館



町の健康を守る診療所

読者の声



渡邊 悟さん
(大夫興野)

「時代に思う」

今年の冬は予想に反し、その農村が都市失業者の受け皿として期待され、しい雪もなく、また、立一躍農業が脚光を浴びて春に大雪と梅の開花が遭遇するという、自然のはかり知れない現象に驚かされる。

「変われば変わる世の中」と言うのが何かがおかしい。

一年足らずで世の中の方向性、考え方がこれほど変わると思わなかった。我が身に一番身近な農業の世界も然り。

最近まで集落維持が困難になりつつある農村を、どう活性化するかが一番のテーマであった。今は

その農村が都市失業者の受け皿として期待され、一躍農業が脚光を浴びている。

米の生産調整、転作問題も一変した。是か否かはこれからの事業展開だが、過去をリセットし、今後の需給調整、食料自給率向上を柱とした施策「米戸別所得補償モデル事業」水田利活用自給向上事業」が盛り込まれた。

まさしく政権交代の産物である。重ねて農地制度改革も行われた。長年の考えを変えることができるだろうか。引きずっている考えを整理し、頭

を切り替え、新しい時代を自分のものにする努力の必要性を痛感する。

そんな中で当町は、農業を基幹産業と位置付け、継続的振興に取り組んでおり、大変心強く感じる。

米の生産調整100%達成、有機資源の活用による良質で安心・安全な食品生産への取り組みなど、多様な面で力のある町と思う。

稲作の他にも果樹、野菜、魚介と全国に誇れる食の宝庫である。その特性を發揮すべく農産物加工センターも整備された。まさに第六次産業化の先取りと期待している。

この時代を生き抜くため新しいものの見方、頭の切り替え(チェンジ)と挑戦(チャレンジ)は不可欠。これを自分自身再認識し未来に託したい。

地方の時代と言われ久しいが、伝統を重んじながら、今後夢と希望の持てる町づくりにまい進することを期待したい。

施政方針表明



渡邊町長

第4次総合計画策定

生ごみたい肥化事業を拡充

米粉パン工房、立ち上げ

22年度は、聖籠町の町づくりを効率的、効果的、計画的に進めるため第4次総合計画を策定作業中です。また、現下の厳しい雇用情勢を踏まえ、21年度に引き続き緊急雇用対策事業を実施します。

そして昨年度開設の消費者生活相談窓口を4月1日から消費者センターに名称変え、消費生活面で町民が安全に生活できるように相談及び苦情の処理、情報提供などの支援業務の充実をはかります。

町パイオマス基本構想に基づき、モデル事業を実施・拡大した生ごみみのたい肥化事業は、ごみを焼却処理することにより排出される二酸化炭素削減だけでなく、資源利用として農地の地力向上に繋げることから、今年度から3カ年計画で全町を対象として、生ごみ分別収集を開始します。

本年度は、用地造成、施設の建設及び生ごみ処理機関連機器購入経費を予算計上しました。

聖籠町杉の子の家作業所(身体障害者小規模通所授産施設)に、新部門として米粉パン工房を立ち上げるため施設整備を行い、技術指導等の運営経費を助成します。

米粉パンは町内産米を使用し、学校給食の供給だけでなく、広く町民に周知して地産地消に繋がる特産品化をはかります。

また、杉の子の家作業所ではパン工房に携わる障害者の自立支援と社会参加、また将来的に就労への移行を促進します。

次第浜浜山土地画整備事業は、完了年度を平成21年度と定め推進してきましたが、昨今の経済事情の悪化により保留地の販売に苦慮したため、事業期間を延長し、平成22年度内の解散に向け取り組みます。

しかし、保留地の販売につきましては、全て売却のめどが付いたことは関係各位の努力の賜物と思えます。

議会推薦の聖籠町農業委員決まる

農業委員会等に関する法律の規定に基づいて、高橋文子さん(二本松 二期目)、高崎信子さん(亀塚 三期目)の2人を聖籠町農業委員会委員に推薦することを可決しました。今後の活躍を期待します。



高橋文子さん
(二本松)



高崎信子さん
(亀塚)

職員異動のお知らせ

平成22年4月1日付けで、議会事務局職員に異動がありましたのでお知らせします。

【転出】
ご苦労様でした。
次長
風間 一美
(町民課へ)

【転入】
よろしく申し上げます。
主任
渡辺 こまき
(ふるさと整備課より)

みなさんの 請願・陳情

第1回定例会では地域住民より直接の声となります。請願1件、陳情2件を審査し、陳情2件を採決。請願1件を継続審査としました。

採択した陳情

核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の決議について(お願)
い(提出者 平和市長会議会長 広島市長 秋葉 忠利)

350万人のウイルス性肝炎患者の救済に関する意見書採択の陳情
提出者 カルテのない薬害C型肝炎の全員救済を求める新潟の会
代表 久保 紀子

意見書を 国に提出

第1回定例会で2件の意見書が提出され、全回一致で可決されました。

可決された意見書は、国の関係機関に提出し、実現するよう要請します。

継続審査となった請願

消費税の増税計画に反対し、暮らしにかかる消費税減税を緊急に求める請願書(提出者 新発田民主商工会 代表 中村 正博)

理由 政府与党において消費税論議の検討がされていることから、推移を見守る必要があるため。

「ヒロシマ・ナガサキ協定書」のNPPT再検討会議での採択に向けた取組を求める意見書

350万人のウイルス性肝炎患者の救済に関する意見書



一般質問

町政を問う

9議員が質問

- 桜井 怜 議員 (13ページ) —
 1. 臨時職員雇用の考えは
 2. 結婚相談支援の考えは
 3. 5選出馬の考えは
- 加藤 正之 議員 (14ページ) —
 1. 関係業者に販売か
 2. 戸別所得補償の総額は
 3. パン工場の将来展望は
 4. 充て職の報酬改善は
- 小林 政榮 議員 (15ページ) —
 1. 基幹産業の意味は
 2. 生産調整面積どうする
 3. 新政策への対応は
 4. 遊休農地どうする
- 宮沢 光子 議員 (16ページ) —
 1. 建設すべき独立図書館
 2. 軽度発達障害の早期発見の状況は
 3. 女性特有がん検診の拡充を
- 五十嵐 利栄 議員 (17ページ) —
 1. 大幅減額した根拠は
 2. 行政改革の達成度は
 3. 事業仕分けをどう考える
- 田宮 実 議員 (18ページ) —
 1. 期待する優良食品
 2. 町民参加の環境美化
- 中村 恵美子 議員 (19ページ) —
 1. 住宅リフォーム助成を
 2. 子どもの医療費の試算は
- 小川 益一郎 議員 (20ページ) —
 1. 政権交代町政にどう影響
 2. 臨時職員2億6000万円必要か
 3. 町長の理想的任期は
- 掘 常正 議員 (21ページ) —
 1. 教科センター方式検証は
 2. 中一ギャップ対策は
 3. 広告看板の趣旨は



桜井 怜議員

結婚相談支援の考えは

町長 検討したい

問 新卒者の県内就職内定率は、高校生84・4%、大学生72・6%、短大生60・7%である。求人倍率を見ると0・47倍、失業率を見ると5・1%という厳しい経済状況の中で雇用も厳しい。

新卒の未就職者が、次のステップに乗るまで、町の臨時雇用をして仕事の意欲を失わないよう、取り組むべきと思うが考えは。

町長 今年度新卒者の就職率が厳しい状況にあることは、承知している。国の緊急雇用創出事業は平成21年度から3力年事業となっており、町は今年度も引き続き継続していく。

新卒者の未就労者への支援対策については、事業の範囲内で対応したい。

臨時職員雇用の考えは 町長 事業の範囲内で雇用する



引き続き緊急雇用をする町役場

問 町内の適齢期のお嫁さん、お婿さん不足の実態は深刻である。少子高齢化対策の一環としても、取り組むべきと思う。また、非常に難しいことでもあると思う。行政として、もう一度ハッピーエンド支援に取り組み考えはないか。

町長 行政が直接的にサポートしていくより、民間事業者と連携したサポート体制、場合によっては、NPO法人等の事業組織化も考えながらやっていくことも必要なのか前向きに検討したい。

5選出馬の考えは

町長 出馬する

問 町長の施政方針にも今期もあと数カ月と述べている。

町の第3次町総合計画が平成23年で終る。第4次総合計画を審議会に諮問されたことと思う。

その答申が今年度中にあり、答申に肉づけを行い町総合計画ができる。その計画が走り出すのを見届けるのも、諮問者の大事な責務と思う。出馬についてどのような

に考えているか。

町長 今、聖籠町の東港を核とした、国策での取り組みが期待されている大事な時期である。

町民の理解と信託がもたれるものなら、常に町民と歩む開かれた町づくりに目指して、住民自治を基本に初心にかえり、挑戦したい。



小林 政榮議員

問 町長は4期16年にわたり農業を本町の基幹産業であると位置づけてきた。

しかし、就業構造の変化の中で農業就業者数は減少する等、自立した産業というには問題があるのではないか。

町長 本町における農業関係者の人口比率は高く、経済的にも重要要素である。今後も本町農業の振興に向けて行政としての努力を重ね、農業所得の向

生産調整面積どうする

町長 大変残念に思っている

問 生産調整の達成状況は、21年度100%となり、未達成状況は解消された。しかし、22年度の本町の生産調整面積は増加した。

原因と対策をどのように考えているか。

町長 昨年は「不転転の決意」をもって転作の達成に、関係者の皆さんと共に努力をした。しかし、全体的な需給バランスの不均衡から、割当数量は減少した。今後はこれらの状況に照らし合わせて、売れる米作りに向けての助成金政策を考えていくことが必要である。

新政策への対応は

町長 対応できる諸施策をする



増え続ける荒れる農地

問 所得補償モデル事業、ペナルティーの廃止等、生産調整に対する対応も変わり、農業政策全般が大きく変わることが予想される。

町長はこの政策をどのようにとらえ、今後の本町農業の姿をどう考えているのか。

町長 22年度生産調整に見られるように、強制ではなく選択性への移行という点を配慮し、本町

基幹産業の意味は

町長 本町経済に大きな影響力

上をはかるとともに、経営基盤の拡充強化に向けた施策を考えていきたい。

関係業者に販売か

町長 あるかもしれない

問 村下開発は販売開始から3年近く掛かって60%しか売れなく、借入金の返済が心配された。

しかし、この年度末に急に完売した理由は何が関係業者に買い取ってもらったのか。

町長 非常に厳しい経済情勢の中、組合の努力で完売した。

一般購入者の他、関係業者に購入してもらったものもあるかもしれない。



加藤 正之議員

戸別所得補償の総額は

町長 町全体で1億円強

問 国の戸別所得補償モデル事業に町内対象農家が全部参加した場合、定額部分の助成金総額はいくらになるか。

21年度生産調整は町の手厚い助成等により100%達成することが出来たが、22年度の達成見込みはどうか。

大豆等促進助成の計画面積が昨年より大幅に少ないが、増加した場合は補正で対応するか。

町長 主食用米の定額部分の助成金総額は、1億円強になると推計される。生産調整はこれまで未達



杉の子の家での物づくり

パン工場の将来展望は

町長 学校給食に500個を

成の農家がどれだけ参加するか予測がつかない。大豆等促進助成は面積が増加した場合、補正で対応したい。

問 杉の子の家に米粉パン工房を設け、自立支援と社会参加、就労への移行促進をはかるとしているが、運営はどのように行うか。また、将来展望は。

町長 結いハートの調理室を改修し、オープン等の設備や各種備品を備える。指導者1人、職員1人、通所者3人の体制で取り組むが、初年度は指導訓練・試作研究・PRの年と考え、年度末には1日にフランスパン・食パン・菓子パンを300個生産・販売できる体制を目指す。

24年度中に学校給食用として1日に500個を調達できる体制にしたい。また、3年程度で収支バランスを確保したい。

充て職の報酬改善は

町長 新発田市長に話した

問 充て職からの報酬等について、改善できるか。構成市町村長に提起していくとしたが。

町長 広域事務組合の管理者である新発田市長に話をしたが、私どもだけの問題ではないという考え方を示された。

遊休農地とじしする

農業委員会会長 地権者に適正管理を要請

問 遊休農地、耕作放棄地の発生が社会問題化して、国も緊急対策を昨年より実施している。農業委員会は、どのように認識しているのか。

農業委員会会長 農業委員会としては、他の業務と兼ねての現地確認や、文書による要請を地権者に対し実施してきた。遊休農地の問題は、基本的に地権者の問題なので、これまでの取り組みを継続していく。

農業の将来を見据えて柔軟に対応できる施策の実施を考えたい。



宮沢 光子議員

建設すべき独立図書館

町長 答申を受け政治決断する

問 2年間続いた町立図書館建設検討委員会の答申が3月中に出される。先に出されている図書館環境整備調査委員会の答申の中で指摘された項目の一つに、建物の狭さが現図書館の機能を低下させているとされていた。町長は、5期目への出馬表明をしたが、図書館建設を公約にする考えはあるか。

町長 平成20年6月に独立図書館の建設に向けた調査研究をしておりますため、委員会に諮問した。答申を受けた後、これまでの経過を踏まえ、独立図書館の必要性を精査して政治決断する。



みんなで考える町の図書館

軽度発達障害の

早期発見の状況は

町長 相談室のあり方を考える

問 発達障害のある児童生徒の増加を受け、県は支援体制を拡充する。軽度発達障害の場合、幼児期に早期発見することで適切な指導とともに周

町長 発達障害のある児童生徒の増加を受け、県は支援体制を拡充する。軽度発達障害の場合、幼児期に早期発見することで適切な指導とともに周

問 困の理解を得ることができ

町長 聖籠中学校内に子ども健康相談室を設置しているが、教育委員会への報告・連絡・相談はどのよう

うになっているか。

町長 子ども健康相談室の設置は私の施策の一つである。設置してから10年経ち、所期の目的に対応できていない実態も見受けられる。今一度精査したい。

教育長 相談室をさらに充実する観点から、教育委員会としても考慮する。

問 昨年、国の補正予算で行われた女性特有がん検診事業をどのように捉えていたか。

乳がん検診と子宮頸がん検診、2つのがん検診が無料になるのは40歳のみであった。

平成22年度県予算案に女性特有がん対策推進事業2200万円が計上された。

県の予算は別にして、今年度、町として事業の拡充をどのように考えているか。

町長 国としては、単年度では事業の効果が薄いということで22年度も実施する見込みである。該当する年齢の人に無料クーポンを配布する。子宮頸がんワクチンについては、段階を踏んで慎重に検討する。

大幅減額した根拠は

町長 国の政策が変わったから

問 水田農業政策で、町の助成金を昨年より40%も縮小した理由は何か。

助成事業も15あったものを一気に13減らして、2事業のみとした(その後2回に分けて3事業復活し、5事業とした)その理由と、このやり方で生産調整は達成可能か。

町長 国が米に対する個別所得方式を行うことで、農家は大きな恩恵を受ける。全体をみて水田農業確立事業もシンプルにしたが、関係者の意見も踏まえて、一部事業を復活

した。

生産調整は100%達成に向けて政策措置した。

問 平成17年から5年間に渡って第3次行政改革に取り組んできた。5年間の結果をどのように自己評価しているか。

数値目標を設定して取り組んできた14の項目で、成果のあがったもの、逆に目標に到達できなかったものは何か。

第3次行政改革は22年度以降のように取り組んでいくか。

町長 行政改革の全52項目の取り組みを総合的に判断すると、約70%は達成された。

特に成果があがったものは軽自動車、低公害車への入れ替えは目標の2倍達成できた。

町税の口座振替率向上

行政改革の達成度は

町長 約70%は達成できた

の取り組みは、36.6%から60%への目標を設定したが、微増(38.9%)に限り、目標達成ができなかった。他にも未達成の事項がいくつかあった。22年度以降の行政改革への取り組みは、町独自の行政改革集中プランに基づき計画を策定して、政策的なものを含めながら対応していく。



農家の春作業はじまる

事業仕分けをどう考える

町長 当町規模では難しい

問 国の事業仕分けは、多くの国民が評価している。聖籠町でも例えば今回、監査委員から指摘された、厚生労働省派遣職員に、働いていない日も日当を支払っていた事実や、コンビニで1枚50円

のカラーコピー代が町では100円など、事業仕分けする価値はあると考える。

町長 日当過払いの件は陳謝する。事業仕分けは当町規模では難しい面がある。



五十嵐 利栄議員



田宮 実議員

期待する優良食品

町長 指定管理者の責任

問 最近各地域で直売所や、特産品の開発、紹介などが多く見られる。

当町にも、町民が団体で利用できる農産物加工センターが完成し、4月1日より利用開始となる。この加工センターが活用され、聖籠町にしかない独自の優良食品が開発されることを楽しみにしている。

加工センターを利用するには、食品を取り扱う衛生面上的な安全性の確保、また、商品の賞味期限、消費期限など、食品衛生法上の許認可が必要となる。

許認可の内容を見ると製造加工から卸・販売まで約40種目ほどある。



多くの利用が期待される農産物加工センター

この許認可を取るとき、指定管理者が取るのか、それとも利用者が各種類ごとに取ることになるのか。

町長 農産物加工センターは、指定管理者による経営と製造業の届出を行

う。

利用者は指定管理者の指導を遵守しながら製造加工をする。

販売等は指定管理者の責任となり、全ての事柄に責任を負うことが前提である。

町民参加の環境美化

町長 委託も想定

問 生ごみのたい肥化については、生ごみを焼却しないで、CO₂削減と資源保護の面からリサイクル・たい肥化し、循環型農法で有機肥料栽培を推進する目的で調査してきた。

現在各地域で公害汚染面や果樹野菜などの食味有機肥料は欠かせない。生産農家では、肥培表示まで公表する時代である。

聖籠町でも3年程の実績を重ね22年度より約1

億円を投資して、各小学校区ごとに拡大して町内全域に渡った生ごみたい肥化事業に取り組みことになった。

この事業の効率性や経済的な面から、業者委託で実施した方が良いと思うがどうか。

町長 この事業は、原則として町が直営で管理運営を基本にして行う。将来的には、事業が安定してきた時点で委託も想定している。

住宅リフォーム助成を

町長 助成はしない

問 住宅リフォーム助成については上越市、胎内市、津南町が行っている。1000万円から3000万円の予算で、億単位の経済効果がでている。

聖籠町でも住宅リフォームの助成をすべきでないか。

国及び地方自治体は、地域中小建設業の受注確保及び地域の就労確保を目的とした地域福祉、防災、改修、修繕型の小規

模公共工事の発注。

特に防災上も緊急性が求められる小中学校や公共施設の耐震改修事業等で地域建設業者への発注を促進することにある。

聖籠町で地域振興条例を制定し、中小企業等が活性化できるようにすべきでないか。

一般競争入札の拡大等により低入札価格の問題が起り、下請の事業者や業務に従事する労働者にしわ寄せがきている。

町で公契約条例を制定し、社会的価値の向上をはかれるようにすべきでないか。

町長 住宅リフォーム助成制度については、基本的に個人の財産形成に公金を助成することは好ましくないと考える。地域振興条例については、阿賀野市、新潟市、新発田市等で条例化している。現状では条例制定までして、定義しながら政策的に打って出なければならぬ大義はない。

一般競争入札で落札しても、再度検証しながら契約という手段を行っている。公契約条例まで制定し、定義づけることはしない。



増えてきた住宅リフォーム

子どもの医療費の試算は

町長 2000万円の負担増

問 子どもの医療費を中学卒業まで助成すると試算はいくらになったか。試算を踏まえ助成できないか。

骨粗鬆症検診の助成はどうなっているか。国民健康保険にも傷病手当、出産手当制度ができるよう町財政試算をするべきでないか。

町長 試算は、2000万円の負担増となり、時期尚早である。平成21年度より移動検診で、40歳から55歳まで5年毎に自己負担500円で行っている。

理論的にも財政試算はしない。



中村 恵美子議員



小川 益一郎議員

政権交代町政にどう影響

町長 当然影響ある

問 昨年8月自民党から民主党に政権交代した。政権交代で町政運営に影響があったか。

町長 プラス面、マイナス面、具体的な政策課題は何か。22年度予算はどうか。マイナス面があるとしたらどう克服する。

町長 政党によって目指すべき理念、政治手法も当然違うので、地方自治体への影響はあった。直接的なものは21年度第2次補正そして22年度当初予算である。22年度当初予算ではムダの排除と財源の確保を目的として事業仕分けが考えられている。マニフェストでは、ムダ遣い、子育て、教育、

年金医療、地域主権、雇用経済の5点の約束をしている。22年度当初予算に計上したものの、施策が具体化しているもの、検討されているもの、今後の動向を注視したい。

国の施策が地域における住民福祉向上に合致するかどうか重要な判断材料として意見を上げたい。

臨時職員 2億6000万円必要か

総務課長 131人必要

問 22年度当初予算に臨時職員賃金が2億6000万円から計上されている。正職員は183人だが臨時職員は何人分かが臨時職員は131人分(賃金と社会保険料込み)である。

町長の理想的任期は

町長 多選に異議なし

問 地方行政の首長の理想的任期は何期が望ましいか。

町長 今期が無競争になれば6・7・8期と続々と進むのではないかと。長期政権は独裁者(的)

と言われるがどう応える。多選を目指す目的は何か、まだ遂行できなかった施策があるのか。

町長 基本的に首長は自身の行政運営に対する思いと政策を掲げて選挙民

の良識な判断で信任を受けて行政運営を委託され、それに応えて公約の実現のために努力していくものと考えている。

基本的には何期だからという多選に異議を持つ特別なものはない。

あえて申せば5期以上の多選を考えた場合一考を認識している。

長期は独裁者(的)かは、4年ごとに町民から洗礼を受けて担当している。



5選目を出馬表明した渡邊町長

私の政治理念や町づくりの基本政策、時々の行政課題に対応した総合計画によって施策展開してきたが7割から8割の実現である。

第4次総合計画に既に着手し山積する行政課題に向け微力ながら貢献したい。

教科センター方式検証は

町長 基本的な方向は変えない

問 県下初の教科センター方式を採用してきた聖籠中学校も創立10年目に入ろうとしている。個性を重視し、地域に開かれた学校を理念とした中学校であるが、過去の年間におけるこのセンター方式の成果、あるいは中学校の学力向上に関しては、町民からも多くの批判がある。

議会からも幾度となく質問されているが、町長答弁は「教育には時間が必要だ。長い目でみてくたさい」との答弁であった。

21年度からは学習指導要領も変わり、ゆとり教育が見直される。町長の言う、長い時間も既に十分かと思う。このセンター方式に対して町民の意見を検証してはどうか。

町長 今後の中学校の目指すべき方向を確認することは必要かと思うが、教科センター方式の基本的な運営方針は変えず、より良い運営方針を教育委員会と調整をはかっていきたい。

中一ギャップ対策は

教育長 小中学校の連けい強化

問 新一年生あるいは保護者にとっては、教科センター方式はなかなか理解できにくいようであり、不安を抱えているように聞いている。

生徒にとっては自分の居場所がないような思いになり、一定の落ち着いた場所を見出せず、不登校や授業を拒否する生徒が多くなるとの意見もある。

学校側の工夫やソフト面の支援はどうなっているのか。

教育長 学級担任2人制を採用したり、出前授業をして満足度を高めている。さらに小グループによる人間関係づくりなどの対策で、さまざまな努力をしている。

問 町内の電柱に「サッカーの町 聖籠町」の広告看板が取り付けられているが、一種類のみでなく、芸術、スポーツ、文化を対等に扱った広告看板にする配慮も必要ではないか。

町長 サッカーの町、アルビレックスのホームタウンの町だという事実から、それを紹介することによって、町のPRにもつながると考える。

広告看板の趣旨は

町長 サッカーの町と認知



電柱に町の宣伝



堀 常正議員

第13回 追跡 レポート

その後どう

なった 請願・陳情のゆくえ



陳情 町道を整備してください

陳情名 道路整備の陳情書
提出者 山大夫区長 中村 義人
議会採択年月日 平成20年9月22日

処理状況

路線測量・簡易設計業務終了

平成21年度に路線測量・簡易設計業務を終了しました。

今後の計画

平成22年度に用地測量・物件調査を行う予定です。



陳情 農道を舗装してください

陳情名 農道舗装の陳情書
提出者 聖籠町大字大夫興野
地権者代表 桜井 清
議会採択年月日 平成20年6月23日

処理状況

法線測量・設計業務終了

平成21年度に法線測量・設計業務を終了しました。

今後の計画

平成22年度に用地測量・物件調査と用地買収を行う予定です。



陳情 地区防災道路を整備してください

陳情名 藤寄集落下通り地区防災道路整備に関する陳情書
提出者 藤寄副区長 遠藤博
議会採択年月日 平成20年9月22日

処理状況

路線測量・簡易設計業務終了

平成21年度に路線測量・簡易設計業務、法線説明会を終了しました。

今後の計画

平成22年度に用地測量・物件調査を行う予定です。



平成20年中に議会で審議され、採択された請願は8件、陳情は8件ありました。その中でも、特に町民から提出され、私たちの生活に深くかわかる3件の陳情について、その後どうなったのかを調査しましたので、処理状況について皆さんに報告します。



委員会閉会中の

継続調査報告

JAPANサッカーカレッジを視察 総務文教

1月27日、網代浜地内にあるJAPANサッカーカレッジの現地視察を行った。

平成21年度の在籍生徒総数424人。内訳は、開校8年目の専門課程の生徒338人。開校5年目の高等課程の生徒86人である。

在籍している新入生出身地データでは、県内のみならず全国各県から生徒が集まっている。近年では、海外からの入学生もいる。

開校以来、生徒数は確保されているが、卒業時の進路実績を重ねることで入学者を確保していき

たいということであった。

高等部の卒業後の進路については、大学への進学率78%であった。全国高校サッカー選手権大会では、創部5年目にして3度決勝進出している。

町の3小学校の週末体験クラブや親子ふれあいサッカー教室、聖籠夏まつり、地域清掃活動など多岐にわたってサッカーカレッジの地域活動は行われていた。



バイオエタノール製造所など視察

厚生産業

1月22日、水田農業確立事業、バイオマス事業、道路整備計画、浜山地区土地区画整理事業、新型インフルエンザ、及び日本海側拠点港湾に関する動きについて調査を行った。

実態を調査し、診療所の新施設を現地調査した。

日本海側拠点港湾に関する動きについては、1月20日に発足した支援協議会の動向を調査した。

水田農業確立事業は、国の政策転換に伴い、具体策が固定化していないため、後日決定した時点で報告を受けることとした。

バイオマス事業については、生ごみ堆肥化の試験事業の実績を調査し、その後全農のバイオエタノール製造所を現地視察した。

道路整備計画については、平成21年度から23年度までの主な整備計画を調査した。

浜山地区土地区画整理事業については、販売実績や貸付金返済計画など5項目を調査した。新型インフルエンザについては、ワクチン投与実績と助成



全国コンクールで奨励賞

議会広報

平成22年2月、議会広報対策特別委員会に、ひとあし早い春の知らせが届いた。

議会だより86号（平成21年4月17日発行）が、第24回町議会広報全国コンクールにおいて奨励賞を受賞した。

昨年に続き、連続3回の入賞である。聖籠町の議会だよりは創刊（昭和63年2月）以来、全国・県コンクールで、幾度となく受賞している。

聖籠町議会だよりをあらためて、創刊以来のものに目を通して。

議会だよりの全国研修会、県研修会、全国コンクールで入賞した先進地視察での成果が手に取るようにわかる。

聖籠町の議会だよりは、一人でも多くの町民に手に取って読んでもらえるように全力を尽くしてきた。

今後も、議会広報対策特別委

員会委員一同、研さんを重ね、町民に親しまれる広報紙を目指したい。



お知らせ

議会を傍聴してみませんか
次回の定例会は、
6月中旬開催の予定です。

今、町ではどんなことが論議されているのだろうか。どんな計画があってどう進んでいるのだろうか。あなたに身近なことも知れません。お気軽に傍聴においでください。

会議録は、町の図書館と保健福祉センターに置いてありますので、どうぞご覧ください。

なお、一般質問の通告一覧は、定例会開催前に、役場1階窓口、町民会館、図書館、保健福祉センターに設置しますので、ご覧ください。



募集

あなたもみんなのページ
聖籠町に嫁いで来た
お嫁さんに出てみませんか！

もし、私も思っている方は、お気軽にご連絡下さい。

対象者は町外から嫁いで来たお嫁さんです。

(連絡先)

聖籠町役場議会事務局

☎0254-27-1967 (直通)

議会広報対策 特別委員会

議長	須貝 龍夫
委員長	中村恵美子
副委員長	高松 守雄
委員	小川益一郎
	宮沢 光子
	田村富美男
	小林 政榮

みんな



ページ

聖籠町に嫁いで来た お嫁さん

毎日楽しく 過ごしています



高橋 亜樹 さん
(真野)

Q どんなきっかけで彼と知り合いましたか？
友人の紹介で出会いました。
第一印象は、笑顔が優しい人だなと思いました。5年間の交際を経て結婚しました。

Q 聖籠町に嫁いで来て
どんなイメージを持ちましたか？
初めて来たときは冬だったので、クリスマスツリーがきれいでした。
果物の木や野菜、植物がたくさんあって四季を感じることができ、海も近くて、自然が豊かで住みやすく、子育て支援も充実していて生活しやすい町だと思いました。

Q 町での生活はどうですか？
毎日楽しく過ごしています。
お母さんが差し入れてくれる晩ごはんがおいしくて、最近、体重が増えてしまったのが気になります。
今は仕事を続けようと思っているので、いろいろな面で家族に支えられているので助かっています。
あと、町のイメージキャラクターがかわいくて好きです。

Q 町に望むことはありますか？
これからも安心して暮らせる町であってほしいと思います。

聖籠町に嫁いで来たお嫁さん、今回は阿賀野市出身で、平成21年10月に真野に嫁いで来た高橋亜樹(旧姓 山口)さんです。
皆さんよろしくお願ひします。

「国民の命」の予算と銘打った22年度一般会計総額、92兆2992億円余の予算が24日可決した。2回目の刷新会議も予定されているという。配分を大いに期待したい。

先日の雇用促進の報道で新大卒業生が県内で就職先が無く夜行バスに乗り、就活に東京に向かう姿を見た。県外流出を危ぐする知事・市長は何を感じたか。

もう一つ考慮してもらいたいことがある。学生、未就職者の国民年金の完納義務である。厚労省の発表では若者・低所得者等過去最多の412万人が未納だという。学生納付特例・若年者納付猶予等特例はある。しかし働いてない人から徴収する法律はおかしいと思う。国民が望むのは、政党はどこでも良い、時代に合う法律を制定する党であれば。親から小遣いもらえないと答弁した首相では期待薄である。日本丸沈没するか、順風漫帆で未来へ出航出来るか。今後に期待したい。

議会広報対策特別委員会
委員 田村 富美男

編集後記